

25pSB-1

科学者の役割とは何か：不確実性の中での科学と社会

東大院理 佐野雅己

What is a role of scientists?: Science and society under scientific uncertainty

Department of Physics, The University of Tokyo

Masaki Sano

大震災以降，社会の中での専門家のあり方がこれまで以上に問われている。物理学会員も専門知識の生産者として，その知識の発信者として，あるいは市民の科学観に関わる科学教育を担う者として，社会的な位置を占め，その責任を負っている。

日本学術会議の声明「科学者の行動規範について」（2006）では，「科学者の責任」を『科学者は、自らが生み出す専門知識や技術の質を担保する責任を有し、さらに自らの専門知識、技術、経験を活かして、人類の健康と福祉、社会の安全と安寧、そして地球環境の持続性に貢献するという責任を有する。』と延べる。また，「説明と公開」では，『科学者は、自らが携わる研究の意義と役割を公開して積極的に説明し、その研究が人間、社会、環境に及ぼし得る影響や起こし得る変化を評価し、その結果を中立性・客観性をもって公表すると共に、社会との建設的な対話を築くように努める。』と述べる。

一方，大震災からも明らかなように，私たち科学者は科学的な不確実性の高い科学的知見も，その社会的判断の材料として評価し，社会に伝えることが求められる。理科の授業のように，唯一の正しい答えがある状況ならともかく，不確実性が高い状況で私たち科学者は「中立性」や「客観性」をどのような形で保ち，社会との建設的な対話を築きうるのだろうか。

社会には多様な立場や価値判断が存在する。そのため，同一の科学的評価の下でも，様々な社会的判断がありうる。そこに

科学的評価の不確実性が加わるとき，社会との接点での科学者と，それを取り巻く制度は，どのようにあるべきだろうか．

本シンポジウムでは，この問題を考えるため，社会と科学に関する実践や論考を重ねてきた多様なシンポジストを迎え，物理学会員との議論に供したい．

最初の登壇者は，この問題に科学技術社会論の立場から長年取り組み，物理学会誌にも論考を寄稿してくれた藤垣裕子氏を迎える．2番目の講演者は，自らの経験をきっかけに法廷における科学的議論の現状と課題を明らかにしてきた本堂毅氏を迎える．3番目の講演者は，医師として問題意識から，医療の現場に立ちつつ法制度のあるべき姿を追究している法学者，米村滋人氏である．4番目の講演は，加速器研究の体験から，科学の不定性と社会が相互作用する場面を解析してきた平田光司氏である．5番目の講演者には，政治学（科学政策論）の立場から，科学的不確実性が強い場面での社会的意思決定の問題を研究してきた尾内隆之氏を迎える．

最後にパネルディスカッションを行い，会場参加者の多様な視点・論点と共に，本課題を掘り下げたい．

参考文献

- 藤垣裕子「物理学者の責任の現代的課題」物理学会誌 2010年3月号，172.
本堂 毅「法廷における科学」科学（岩波書店）2010年2月号，154.
米村滋人「『法律』と『科学』」HAB NEWS LETTER 14(1)6（2007）.
平田光司「ファインマンが見た巨大装置の安全性」科学（岩波書店）2011年9月号，914.
尾内隆之「だれが原子力政策を決めるのか」科学（岩波書店）2007年 11月号，1164.